

ゲノム制御学講演会

がんペプチド ワクチン療法の 現状と展望

ゲノム研究などの生命科学研究の成果が、創薬のあり方を大きく変えつつあります。

がんに関しては、外科療法・放射線療法・化学療法の3つの大きな柱となる治療が行われていますが、必ずしも十分な治療を達成できているとは言い切れません。中村祐輔先生は、これら3つの治療法に加え第4の治療法として、ご自身のゲノム研究の成果をもとに開発された「がんペプチドワクチン療法」による臨床研究を多くの医療機関と連携し実施されています。

本講演会では、この療法の最新の進展状況および今後の展望をご紹介します。

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

中村 祐輔 先生

Prof. Yusuke NAKAMURA

東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター
ゲノムシーケンス解析分野 教授
内閣官房参与・内閣官房医療イノベーション推進室長

平成 23 年 12 月 6 日 (火)

17 : 30 ~ 19 : 00

徳島大学病院 西病棟 11 階

日亜メディカルホール

本講演会は大学院医科学教育部特別講義を兼ねています。

問い合わせ先： 疾患ゲノム研究センター ゲノム制御分野 片桐豊雅 電話：088-633-9477